

豊かさのなかの貧しさ…

デジタル ネイティブ の子をめぐる

スペシャル
座談会

P6

大人 の役割とは

100号記念特別号

きずな

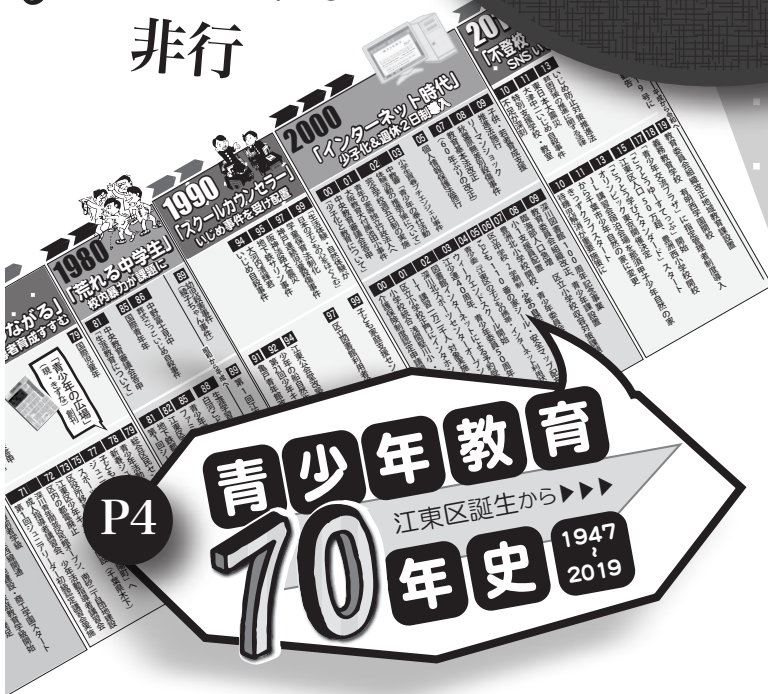
家庭・学校・地域・行政

みんなで担ってきた

「青少年健全育成」にむけた
実践力を次代につなぐために。



ひきこもり いじめ
非行



P4

青少年教育 70年史 江東区誕生から 1947 2019



KOTO city In TOKYO
スポーツと人情が熱いまち 江東区

ひろげよう
心のネットワーク
青少年健全育成広報紙

No. 100

令和2年3月31日

発行：江東区地域振興部青少年課

〒135-8383 江東区東陽4-11-28

☎03-3647-9813 (直通)



居場所 づくり



P9

中高生

地域で育ちを支える

P2 はじめに

P3 「きずな」100号記念特別企画

・第1部 振り返ろう「青少年の歴史」 青少年教育70年史

・第2部 座談会「デジタルネイティブの子をめぐる大人の役割とは」

P9 青少年健全育成イベント講演会「地域で中高生の育ちを支える」

P13 江東区内の小学生、中高生の学び・居場所事例

P15 青少年健全育成重点取組事項

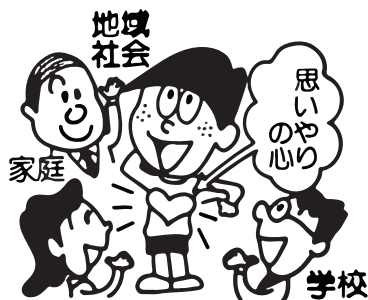
P16 こどもをめぐる相談・ジュニアリーダー講習会案内

目次

はじめに

家もなく食べ物にも不自由した戦後を克服し、日本が先進国へ肩を並べさらなる競争力を持つことが求められていた時代に「**青少年の広場**」は発刊しました。

1978年のことです。



青少年行政は戦前の文部省の**健全育成事業**と内務省の**非行対策事業**の2本の流れがあります。

江東区では教育委員会の社会教育課が地域の青少年団体とともに青少年交流プラザの前身である青年館を拠点に、これらを担い、子どもたちの成長を見守ってきました。

成人式への参加、青年団、子ども会での活動は人々の記憶に深く根ざし、少年キャンプはすでに地域の伝統的な年中行事となっているのではないのでしょうか。

さらに、非行防止、社会を明るくする運動、薬物乱用防止などは目立たない活動ではありますが、健全な社会の下支えとなる大事な役割を担い続けています。

2009年、地域振興部に青少年課が設置され、事業の一部が補助執行となり、現在に至ります。

23区の中で、**江東区**の**地域力が抜きん出て高い**ことは子ども会活動や少年非行件数の低さから明らかです。

2000年、「青少年の広場」は「**きずな**」と改称し、いじめや不登校などの課題への対応を含め、広く青少年情報を発信してきました。

本年、**100号**を迎えたことから、地域の青少年団体等の皆様をお迎えし、この間の歩みを振り返り、さらにはこれからの青少年へ向けた取り組みについて語っていただきました。

ジュニアリーダー講習会では親子2代に渡っての講習生が生まれています。



私たちはこの「**伝統**」と「**地域力**」を次代につなげていきたいと思うのです。

「きずな」100号の特別企画！！

江東区を中心に「青少年」の育成に長年携わってきた30代から70代までの大人たちが集結！
「今」と「昔」のこども・大人の変化や課題について熱く語っていただきました！

第1部

振り返ろう！ 「青少年」の歴史

青少年教育
江東区誕生から
1947
2019
70年史

第2部

豊かさのなかの貧しさ…

デジタル ネイティブ 大人 の子をめぐる の役割とは

スペシャル
座談会



@江東区
教育センター

第3部

令和時代の CHU-KO-SEI 中高生 地域の大人 に は何かができる!?

司会
岩崎裕之
(青少年課)



座談会の参加メンバーはこちら！

 <p>中学の部活動の お手伝いをします 忍者が好き！</p> <p>藤本 渡 ふじもと わたる</p>	 <p>近所の子供たちと 遊んでるオジさん です 食べること 旅行が好き</p> <p>関口 信 せきぐち まこと</p>	 <p>公益社団法人の 役員をしています 東京下町 江東区が好き</p> <p>岩切 準 いわきり じゅん</p>	 <p>お通・お祭り 掃除が好き 地域の何でも やりたがり お坊さん</p> <p>清水 信純 しみず しんじゅん</p>	 <p>子供と 遊んでいます！ バドミントン 釣りが好き！</p> <p>安部 敏啓 あべ としひろ</p>	 <p>ピートルズが好き 教育委員会の 仕事をします</p> <p>田中 徹 たなか とおる</p>
<p>元中学校長（深川四・南砂・第三亀戸・深川二中を歴任）。退職し、現在は教育センターの相談員をしている。</p>	<p>代々続くまち工場を経営。ジュニアリーダー講習会講師、江少連の理事。こどもたちには「チャーリー」と呼ばれている。</p>	<p>元ジュニアリーダー。江東区で育ち、大学院で心理学を専攻。その後NPO法人を起業し約15年取り組んでいる。</p>	<p>寺の住職。元小学校PTA会長、保護司、少年補導員、薬物乱用防止推進江東地区協議会会長。町会長、人権擁護委員。</p>	<p>元小中PTA会長、江少連西部地区連合会、白河地区対、町会子ども会役員。「もりこカフェ」主宰。地域コーディネーター他、様々なこども支援を行う。</p>	<p>昭和63年に江東区入庁。地域教育課社会教育主事。青少年センターオープンに携わるなど役所生活の約3分の2は青少年セクションにいる。</p>

第1部

青少年教育 江東区誕生から▶▶▶ 70年史 1947 2019

江東区が誕生してから現在に至るまで「青少年」に関連した出来事はどんなものがあつたのでしょうか。

座談会メンバーと見ていきましょう▶▶▶

荒れる中学生 1980年代



私が教員になった時は、校内を自転車
で走ったり、授業をサボって屋上にた
むろしたりする生徒がいて、私が出張から帰る
とクモの子を散らすように教室へ戻っていく…
というようなこともありました。

70年代後半までは教員は一つの学校
に10年、15年いられたので保護者や地域
と関係を作りやすかつたんです。

しかし、この頃から制度が変わり6年しかい
られなくなつた。地域や保護者との関係は非
常に作りづらくなつてしまつたんです。



1940~60

「戦後復興」 教育より生活優先



47 49
社会教育法制定
教育基本法制定

53
青年学級振興法制定

64
東京オリンピック開催

47
深川区と城東区が合併。「江東区」誕生

50 51 55 57
深川図書館「都」から「区」に移管
深川少年少女連合会発足・成人学校開設
文化係緑蔭子ども会、ひなまつり子ども会等実施
第1回おとしき列車実施・城東図書館開設

61 63 64 66 67 69
亀戸青年館並びに区民館開館
区立小学校PTA連合会発足
ジュニアリーダー講習会実施
江東区少年団体連絡協議会発足
生活合理化講習会、家庭教育学級開始
大島4丁目団地建設・商工学園スタート
地下鉄東西線開通
婚前者学級

1970

「地域でつながらる」 子ども会・指導者育成すむ

71
社会教育審議会発令
「急激な社会構造の変化に対処
する社会教育のあり方について」



「青少年の広場」
（現・きずな）創刊

79
国際児童年

71
成人指導者講習会、少年活動指導者講習会
第1回ジュニアリーダー初級認定講習会実施
深川青年館並びに区民館オープン、南砂二丁目団地建設

72 73 75 77 78 79
区内の都電廃止
江東区少年キャンプ村開設（千葉県木下）
区役所移転「白河」から「東陽町」へ
スポーツ会館オープン
区役所移転「白河」から「東陽町」へ
子ども会育成者協議会地区別協議会
ジュニアリーダー中級講習会開始

79
総合区民センターオープン
青少年活動指導者講習会
新春ジュニア演劇教室開始

1980

「荒れる中学生」 校内暴力が課題に

81
中央教育審議会発令
「生涯教育について」

85 86
国際青年年
中野富士見中
葬式ごっこいじめ自殺事件

89
幼児殺害事件
（綾子ちゃん事件）

81
地下鉄都営新宿線開通
第1回シーサイドマラソン

82 85 88
江東区文化センターオープン
ファミリーキャンプ青海13号埋立地で開始
青少年問題協議会「家庭の日」制定
ファミリーキャンプ青海13号埋立地で開始
生涯学習推進協議会設置
白河子どもとしゃかん開館

89
第1回江東子どもまつり



江東区発足当時の区役所



少年キャンプ村 1972

少年活動の指導者育成 1971



少年活動指導者講習会を受けて、少年
キャンプへお手伝いをするに。最初は、
もう何もできないので、お湯を沸かして。レト
ルトの「ボンカレー」でしたよ。指導もそこ
からスタートしたんです。

でも地域の大人の方たちも一生懸命だつた
ので、親もジュニアリーダーの講習会に行きな
さいと言ってくれ、どんどん子どもたちも来た。
ジュニアリーダーが増えていった時期だつ
たんです。



江東区文化センター 1982



三宅島キャンプ 1992

6年生の時に行ったんですけど、やっぱり自分の人生の中でショッキングだった。魚が目の前で泳いでいるとか、今まで感じたことのない世界でした。当時、三角テントだったんですね。簡単に壊れるんですよ。今のドーム型テントじゃないので。風が吹いたら倒れてたり。食事はもうどうなるかわからないとか。

常にちょっといい形で命の危機を感じながら過ごしたのがすごく大きくて。そういう経験が自分の人生の節目節目でいい意味でのカルチャー ショックを与え続けてくれたというのはあるかなと。

ウィークエンドスクール 2003



学校が土日休みになったことで子どもたちの居場所を何とか確保するためにウィークエンドスクールというのを始めました。

今、小学校は46校あるうち、11校しかウィークエンドスクールがないわけなんです。大変ですけど、すごくいい活動で子どもたちも楽しんでいるし、土曜日喜んで来てくれています。

犯罪の低年齢化問題 2010年代



少年非行が非常に低年齢化している。簡単に言うと、幼稚化しているんです。

例えば、データですと、中高生の万引きももちろんあるんだけど小学生の万引きがすごく多いんです。

ゲーム感覚でやっちゃって○○君がやっているから、じゃ、僕もやっちゃおう、という感じ。

デジタル化が進んで便利になりつつも心配ですよ。



1990

「スクールカウンセラー」いじめ事件を受け配置

- 94 大河内清輝君いじめ自殺事件
- 95 地下鉄サリン事件
- 97 阪神淡路大震災
- 99 神戸連続児童殺傷事件
- 99 学童保育法制化
- 99 中央教育審議会答申「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ」

1991

- 91 亀戸青年館改築「青少年センター」に
- 92 第20回少年キャンプ村若洲海浜公園で実施
- 94 江東公会堂改築「ティアラことう」に
- 94 少年の船自然生活体験事業開始 三宅島

1997

- 97 区立図書館利用者検索システム導入

1999

- 99 子ども家庭支援センターオープン

2000

「インターネット時代」少子化&週休2日制導入

- 00 中央教育審議会答申「少子化と教育について」
- 01 大阪教育大付属池田小事件
- 02 青年の家等独立行政法人へ
- 03 小学生買春ブチエンジエル事件
- 03 中教審「青少年の奉仕活動体験活動の推進方策について」
- 03 完全学校週五日制の実施
- 05 個人情報保護法施行
- 07 教育基本法改正(60年ぶりの改正)
- 08 リーマンショック
- 08 秋葉原無差別殺傷事件
- 09 教育基本法改正

- 00 小学校統合 浅間堅川小・第一砂町小・南砂小 介護保険制度認定申請開始
- 01 区立小学校正門にインターホン設置
- 02 IT講習一万二千人対象実施
- 02 深川北スポーツセンターオープン・台宿通学開始
- 03 ウィークエンドスクール開始
- 03 江少連40周年、青少年委員50周年
- 04 図書館インターネットによる予約受付
- 04 青少委「江東区の子どもの携帯・インターネット利用状況調査」
- 05 こども110番の家シール・安全マップ配布
- 06 区立中学校2学期制・少年の自然生活体験事業八丈島から蔵王へ
- 07 豊洲北小学校開校・青少年委員会都立高校紹介開始
- 08 小1支援員配置
- 09 臨海部人口急増 区立小学校収容対策課題に

2010

「不登校・ひきこもり」SNS いじめ・拡散

- 10 特別支援学校・教室不足が深刻
- 11 東日本大震災
- 11 津中一いじめ自殺事件
- 13 いじめ防止対策推進法
- 13 貧困対策の推進に関する法律
- 19 江東区台風19号により避難勧告

- 10 待機児童解消が重要施策に
- 11 きつずクラブスタート
- 11 から千葉市少年自然の家に変更
- 13 JL講習会宿泊会場を那須甲子少年自然の家
- 13 オリジナルピク東京開催決定
- 15 江東区人口50万人超、豊洲西小学校開校
- 17 「ことうゆーすてつぷ」開始
- 18 義務教育学校 有明西学園開校
- 19 教育委員会組織改正地域教育課設置

青少年センターで目指したこと 1991



青少年センターでは、ジュニアリーダー講習会のほかにも一般の青年対象の講座をいっぱいやっています、自立とか社会性とか、そういったところを目指した、どちらかというと前向きな、行け行けドンドンの事業展開でした。

「青少年の広場」
「きずな」に



少年の自然生活体験 2006



小1支援員配置 2008



有明西学園開校 2018

第2章

豊かさのなかの貧しさ…

デジタル ネイティブ 大人の子をめぐる の役割とは

スペシャル
座談会

ここから座談会開始！

江東区で中高生と密に関わってきた大人たちが感じる、今の子どもたちの現状と課題を語っていただきました！

【司会（岩崎）】 タワーマンション居住者が増え、子どもたちの暮らしも激変している江東区ですが…
子どもたち同士で誘い合って遊ぶ日常はもはや目にすることも少なくなって、スマホで連絡、オンラインゲームで会うことが日常になりつつあるとも聞きます。
みなさんはこのような状況をどうお感じになりますか？



ボーっとしている子がない

【安部】 今、町内でも、暇な子どもがないというのが僕はすごく問題だなと思っています。

1人でぼーっと考えたりとか、物

思いにふけるというのって結構大事だと思っているんです。

塾だったりとかサッカー教室だったりとか、スポーツもルールに基づいたものをやらされるというか、それを突き詰めたらいいのかもしれませんが、何にもないところで遊ぶことがすごく苦手な子どもが多いというのは結構感じますよね。

傷つきやすい子どもたち

【藤本】 学校も現在校内での暴力的な行動は、昔に比べ本当に少なくなりました。

子どもたちもやっぱり認められて育つ、褒められて育つことが優先されています。しかし、その反面、折れたときの子どものショックは大きい。

失敗体験が少ないんです。

中学校の授業で、ここはみんなに静かに聞いてほしいという場面でもその時思いついたことを、ばんばん言っちゃう子が多い。そうすると指導されるわけですね。

「今、そういうことを言うときじゃないよ」と。

すると傷ついちゃうんです、子どもが。そういうことの繰り返しで、ここ十数年続いているんですね。

教員も変わらなきゃいけない時期にきています。



地域みんなで遊ぶことをしなくなった中高生

【関口】 40年前は地域の子ども会が盛んでした。

地域全体でジュニアリーダー^(※1)

を育てよう！という熱意もあり、子どもたちの休日もそういう地域活動に向けられていましたよね。優先順位も1番目か2番目ぐらいの感じがあったんですけど今はそれが厳しい。中高生は部活が1番。中3、高3は受験があるのでなおさらです。

【安部】 地域の活動に、うちの娘は中学生から参加したんですが、小学生からやらせたくても部活や習い事もたくさんあって、ジュニアリーダー講習会などの全ての活動に参加するのは不可能でした。

子どもを取り巻く環境が激変しているといえるのではないかと思います。自分の中高生時代を振り返ってみても学校と家の往復でしたから、地域の活動に目が向くきっかけはなかったなあ。

(※1) 子ども会のお兄さんお姉さんとしてレクリエーションをしたり、キャンプなどでの指導を行ったりする青少年のこと。



デジタル社会の大人たち 子どもたち

【清水】 こどもも大人も生活がアナログからデジタルに行っちゃったという。

我々のころは、電話って黒電話でした。各家庭に1台ですね。彼女のうちに電話すると、おやじが出る。そういうこともあったんです。今は、もう子どもが生まれたときからスマホですから。

すごく感じるのは、

今の子どもたちってアナログ経験がないなと。

それこそ、20代の幼稚園の先生がマッチをつけられない。具体的な生活経験が少ないし、やっぱり直接のコミュニケーションの場が減っちゃっている気もするんですよ。

【田中】 便利ですぐに情報が手に入るという利点は確実にあるし学校教育のツールとして期待されていますが、やっぱり情報は持っていても体験をしていないということもあるのか、



子どもたちの自己肯定感が低い。

何か生きづらい、ちょっと心に不安を持っている層はかなりいると思います。

【司会 (岩崎)】 やっぱり「体験が子どもを育てる」と思いますよね。

子ども自らが計画し、自分たちで火をおこしたりご飯を作ってテントのなかで寝る…みたいな地域子ども会のキャンプ活動はやっぱり大事だと感じます。

しかし、それが現代の子どもたちには難しい訳ですよ。

「地域」や「家庭」での教育の力が低下してしまっている今、「学校」にその教育の足りない部分を任せっきりにして、先生たちが担うべき領域を超えて背負ってしまっている気がするのです。

そのあたりは、皆さんどうお考えですか？

なんでも学校頼みはもうやめたい。家庭・学校・地域それぞれが機能していかないと

【清水】 小学校教員をやっている私の子を見ていますが、学校の先生は激務です。

時給換算すると560円と言っていました。

朝7時から行って、遅くまで。子どもは悪くないんですよ。ただ、どこかで子どもたちのために何かしなきゃいけない。そうすると、今のところ、全部学校に行ってしまう。

【岩切】 私は、明らかに**社会教育の衰退**が課題だと思っています。



日本の教育は、学校教育にあらゆるものを預けてきているんですよ。

先生たちもいろいろ引き渡していきたいんですよ。ただ、引き渡せる先がない。

完全学校週5日制になったときに、社会教育がもっと本気になって頑張るべきだった。

例えば、共働きや、デジタル化の発展など、社会的な変化が大きい状況の中で、もっともっと社会教育が変わって、これからの社会で活躍する人材をどうやって育成していくのかを学校以上に考えるべきだと思う。

【岩切】 江東区の問題だけではないんですけども、

地域で子どもの個性とか特性に応じた「学び」をいろいろ選択しながら活躍していけるというものを

を本来的には目指していくべきかなと。

学校も教員も変わらなければならない



【藤本】 私は教員も変わらなければいけないと思っています。

学校もこれからの時代、変わっていくための努力をしないと行けないんだろうなというのを痛切に感じています。

地域の活動と部活動は子どもたちの乗り越える力を育てる機会となるところは一緒です。

今後、部活動は平日5日間のうち1日以上休みますので、各学校や地域がきちんと連絡をとり合っていれば両立が可能です。

いじめの問題も、自分がいじめる側にいれば、いじめられる側にならないということを、みんな学んできてしまっていると言われています。

どこの学校でも顕著に事例としてあります。そういうのはやっぱり課題なんだろう。



学校で見せない一面を地域活動で見せる子どもたち

【関口】 江東区の西部地区のキャンプは、今では珍しいかもしれませんが、学校の先生も子どもたち

と一緒に参加して寝泊まりするんですよ。

自分の学校の児童がどんな活動をしているのかな、というのを見ていただいているんです。

学校とは違う非日常的な活動なので、

「えっ、あの子、こんな活発に動くんだ!？」とか、普段学校ではすごくおとなしい子なのに、すごく活発に積極的にやっているという発見がある。

地域活動っていうのは、学校では見る事ができない、本来の子どもの資質みたいのが出てくるのかな、なんて気がするんですよ。

【安部】 PTAとか子ども会、ウィークエンドスクールなど、結果やっていることは社会教育なんだなと思いましたが、多分そこ、マイノリティーですよ。

我々には身近な「ジュニアリーダー」も他の地区の保護者はもちろん、先生も認知が非常に低いと思います。

変化のスピードに学校・行政がついていけない 結果生まれた「不登校・ひきこもり」問題



【岩切】多様性に向かっていくスピード感が非常に速い中で、そこに枠組みが追いついていかないといけないのかなと、結構危機感として強く感じています。

その結果として、不登校の子だったりとかひきこもりの子を結局、摩擦として生んでしまっている。

不登校が16万人以上いるという状況の中で、その状況というのは、大人がついてこれなかったというか、結局、大人が変わっていけなかった結果を子どもたちに反映してしまっている状況だな、というのは強く感じます。

平均的なものを求め続けた時代の中で、大人にはわからないところに出っ張るようになっていきます。

【田中】ひきこもりがちな子どもや青年層に、どうアプローチをしていけるかが求められているのかな、と思っています。

居場所的な機能や、安部さん、岩切さんがやっているような子どもを中心に据えたアプローチを、今後行政も大切にしていきたいなと思っています。

行政のひきこもり対策 つながることをあきらめない



【田中】私が今から7年前に青少年センター（現 青少年交流プラザ）に戻った時はすでに不登校とかひきこもりの層が社会問題化していたんですね。

青少年センターとしても、そういったところの青少年層に対して何かしらアプローチ、働きかけをしていきたいとなりました。

そこで「こうとうゆーすてっぷ」という相談機能をもった窓口を立ち上げました。

最初、ひきこもりに特化した相談だったんですけど、今は「青少年総合相談」ということでも間口を広げて、なるべく早い青少年期にいろんな問題の解決へのアプローチをして、長期のひきこもりを作らないよう、取り組んでいます。

なかなか地域のつながりといっても、すぐに結果は出ないとは思いますが、そういった子どもたちとつながっていくことをあきらめないところが大事なかな。

そう思っている人が、地域全体にいっぱい増えていくといいのかなと思っています。

家庭も子どもと一緒に 成長していくことが大事



【安部】PTAを、僕は7、8年やっているんですけど、やっぱり一番大事なのはコミュニケーション。実際に会って話すと何でもありません。会わないと、毎週末会っているのに、その1週間で、何でそんなに信用できなくなるのかな、というぐらいなことがほんとにあつて、子どもの中も同じなんですよ。

小学校のときのPTA連合会のスローガンに「子育て、親育ち」というのがありました。

子どもから教えられることのほうが親は多いわけで、一緒に育てるというのを、これからもっとやっていかなきゃいけないなと思うと思っています。

【田中】今年の1月11日の朝日新聞夕刊の1面に、子どもの幸福度、幸せは、どういう状況や要因だと高まるのかという調査分析が載っていたんです。

- 1番目が「子ども自身がまわりに困っている人がいたら助ける」
- 2番目が「自分が困ったときに相談できる人がいる」
- 3番目が「母親が困ったときに相談できる人がいる」

こういう状況だと子どもが幸せを感じている。

3番目が印象的で、やっぱり安部さんが話されていましたが、**親が孤立しない状況**が大切なのかなと感じました。

平和で豊かな国に育ち、学力も体力も先進諸国にそん色のない日本の青少年。

しかし、地域のコミュニティは希薄になって、本来、家庭や地域で担うべき事柄が学校負担となっているという課題が各方面から指摘されています。

それでも江東区は依然、町会への加入率は60%を維持しているのです。

歴史ある伝統行事や祭りへの参加も盛んで、それを支える組織も根強く存在している地域です。

座談会の登壇者にはすでに地域でカフェを開いたり、イベントを実施し、新しい地域の教育力となっている方たちがいます。

子どもの居場所づくりはコミュニティの再生と重なる有効な手段となると思います。

講演内容
ダイジェスト版

令和時代の
CHU-KO-SEI

中高生

地域の大人

は何かができる!?

講師

認定 NPO 法人夢職人・理事長 **岩切 準**

令和元年度江東区青少年健全育成イベント
「地域で中高生の育ちを考える」講演会

江東区ができる取り組みとは

1. 中高生の「思春期」という時期について

ある日突然「大人になりました」という子は存在しません。

徐々に細かい階段を上っていきます。



まず「心」と「体」の成長が著しくアンバランスになる。個人差が出て来やすい。

徐々に親離れしていき「親との距離感」を模索するようになります。反対に「友達」には認めてもらいたい気持ちが高まる。

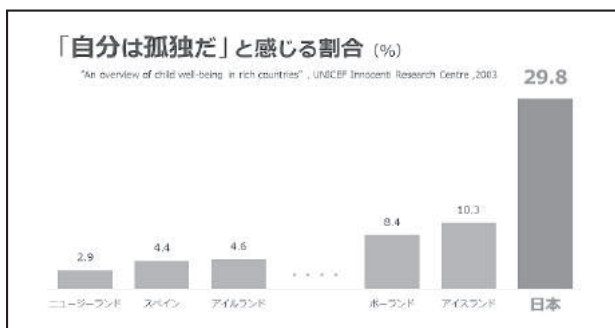
そして大人になるための試行錯誤の中で、大変不安定になりやすい時期と言えます。



2. 「孤独を感じる」日本の中高生

ユニセフがこどもの幸福度調査を実施し、各国の比較をしています。

15歳の子どもたちに「孤独を感じることはありますか」と聞きました。



こんなに日本が突出しています。

実は日本の10代20代の死因ナンバーワンは「自殺」です。そして、小中高生の自殺の原因1位「学校」。2位「家庭」3位「健康」です。

子どもたちがこれから活躍していくうえで必要になる「知識や技術」のサイクルはとても短いです。先行き不透明な中、今の子どもたちはその都度いろいろなチャレンジをしていくしかありません。

その時に「やってみよう」「できるかもしれない」と思う自己肯定感を土台にした心のマインドセットがあれば大丈夫。

根拠なしの自信でやってみようと思えるためにはこういったものを身につけておく必要があります。

3. 「やってみよう」「できるかもしれない」 そう思える ”自己肯定感” とは!?

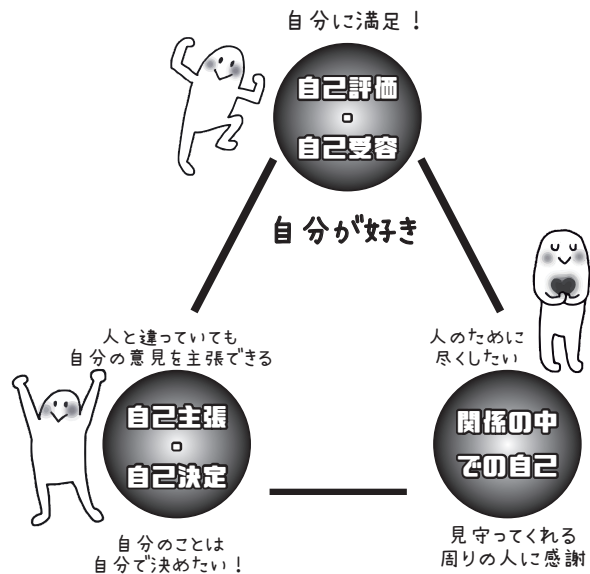
自己肯定感・自尊心・自尊感情・自己評価・自己有用感…
と様々な言葉が使われていますが、今回は、1つの単語に
包括します。

self-esteem 「セルフ・エスティーム」

「ありのままの自分が好き」
「自分は人に認められている」
「自分は自分の判断や行動を信じることができる」
という感情です。

自分はかけがえのない存在だと感じる心の状態。
そして情緒の安定にもつながっていくところがあります。

そもそも自尊感情には
「自己受容」「関係の中での自己」「自己決定」という3つ
の要素があります。どれが低いのかによってその子への
働きかけが異なります。



4. 「自己評価」「自己受容」が低い日本の子どもたち

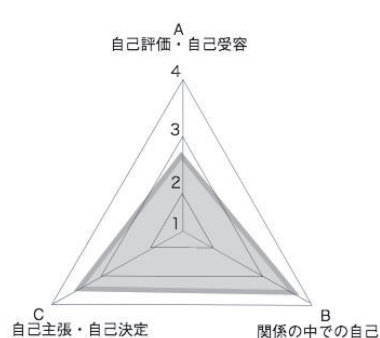
東京都の調査ではこの類型
に基づいて質問項目を作成し、
こどもに答えてもらっています。
それを類型化すると、その
子の自尊感情はどのぐらい
なのかが測定できるよう
なっています。

日本のこどもに一番ありが
ちなのは下記グラフの様な
「自己評価」「自己受容」が
低い。
「関係の中での自己」は比較
的高い状態で、
「自己主張」「自己決定」も
比較的できています。
そういう子にどう指導
が必要か提示されています。

自尊感情測定尺度 小学生【第4学年～第6学年】・中学生・高校生用

A 自己評価・自己受容 (8項目)	1	私は今の自分に満足している
	2	私は自分のことが好きである
	3	自分はダメな人間だと思うことがある (#)
	4	私は自分という存在を大切に思える
	5	私は今の自分は嫌いだ (#)
	6	自分には良いところがある
	7	自分は誰の役にも立っていないと思う (#)
	8	私は人と同じくらい価値のある人間である
B 関係の中での自己 (7項目)	1	人の意見を素直に聞くことができる
	2	私は人のために力を尽くしたい
	3	私はほかの人の気持ちになることができる
	4	私には自分のことを理解してくれる人がいる
	5	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことは責任をもって取り組む
	6	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している
	7	私には自分のことを必要としてくれる人がいる
C 自己主張・自己決定 (7項目)	1	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる
	2	自分の中には様々な可能性がある
	3	私は自分の判断や行動を信じることができる
	4	私は自分の長所も短所もよく分かっている
	5	私にはだれにも負けないもの(こと)がある
	6	私は自分のことは自分で決めたいと思う
	7	私は自分の個性を大事にしたい

(#)は反転項目



【傾向】

- ・思春期・青年期に多く見られる傾向。
- ・他者を理解し、協調性を重んじている。
- ・短所が気になり、他者と比較して自己を評価する傾向が強い。
- ・自信がないため、自己を否定的に見る傾向。
- ・人間関係のバランスが崩れるとわがままや依存性が表面化する可能性も。

【指導の方向性】

- ・自分のよさや個性を認識する場面や経験を増やす。
- ・具体的な場面を捉えて褒める。
- ・保護者に学校での成果をきめ細やかに伝え家庭でも認め褒めてもらう。

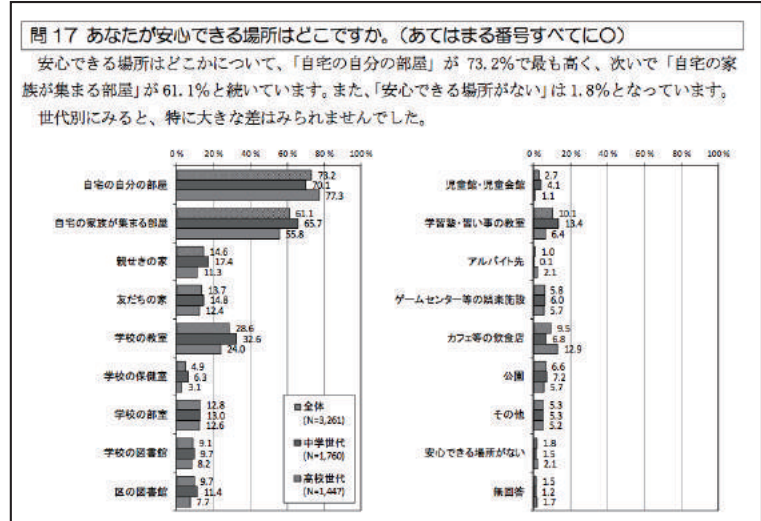
5. 江東区の中高校生アンケート 「安心できる居場所」とは

「中高校生が安心できる場所ってどこ？」
 と言ったときに、基本的には「家」が
 中心。プラス「学校」とかですけれど
 も、全国調査でも大体こんな感じです。

一番びっくりしたのが、
 「安心できる居場所がない」が1.8%
 これはかなり危ういです。
 何に悩んでいるのか。「勉強」「進学」
 のこと。「将来」のことについて悩ん
 でいますという子が圧倒的です。

これは全国調査でもほぼ一緒です。

平成30年9月
 江東区子ども・子育て支援事業計画策定に
 関わる調査第3章中高校生世代調査結果より



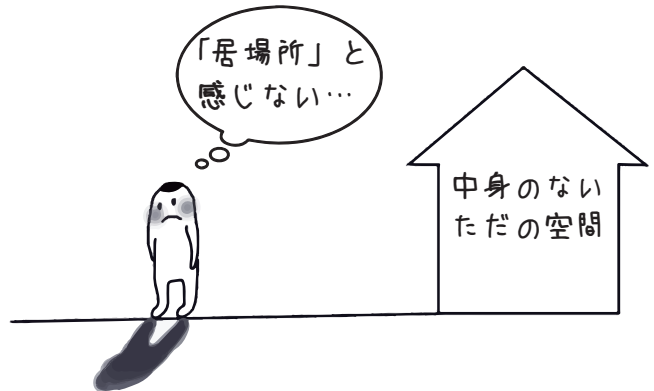
6. 中高生の「居場所」ってなに？

「居場所」というと物理的空間を想像される方が多いです。

講演会を頼まれて話をするんですけども、「岩切さん、〇〇センターができたんですが、人が集まらないんです！」と。それは当たり前の話で、そもそも「居場所」っていう空間じゃないんですよ。

「居場所」って感じるのは「本人の主観」なんです。大事なのは「コミュニティ」「ネットワーク」この2つなんです。

つまり中身があった上でハードがないといけません。その「つながりを育む場」を先につくらなければ、いくら場所ができて来ない。これは全国共通です。



場所なんかないけれども、ちゃんとこういった関係を育てている地域はたくさんあります。その機会をどう捉えるかです。

7. いろいろな「行き場」が中高生の心のバランスにつながる

提案したいのは
 「コミュニティ・ポートフォリオ」です。

いろいろなものに幅広く投資したほうが、どこかがへこんだ時にバランスが安定するという考え方です。こどもの成長過程でも全く同じです。

学校ではサッカークラブだけ（部活動だけ）に人間関係があったりすると、メンバーとの関係につまづいたりすると行き場がなくなります。いろいろな選択肢があれば、どこかで傷を負ったとしても他で支えられる可能性があるのですが「コミュニティ」が極端に少ないのは危険です。

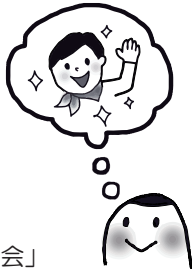
中1でコミュニティが入れ替わった時の影響は大きいのですが、並走してあげる「家庭」や「地域」が子どもたちの心のよりどころになる必要があると思います。



8. 「場と機会」「出番」が中高生の将来につながる

思春期・青年期に必要なのは

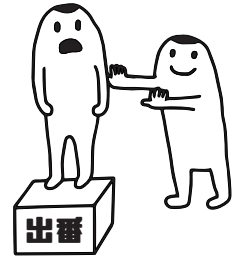
- (1) 「親」以外のロールモデル
「目標になる大人」
- (2) 進路や将来に関する
ヒントになる「きっかけ」
- (3) 中高生自身がアクションをして
社会的評価が得られる「場と機会」



居場所は「出番」から生まれます。
子どもたちの「出番」を作ってあげることが居場所になるんです。

居場所は他人には作れないのですが、「出番」は作れます。

そこが非常に大きな差です。



9. 「江東区」の町全体に「中高生の居場所」をつくる

「この地域で育って良かったな」と思ってもらえるために「教師」「親」だけではなく多くの「登場人物」・「出来事」が必要。江東区の町全体で中高生の体験と学びを支えるという構想です。

action

中高生が自分たちのアイデアや能力を発揮していくことができる。

new friends

クラスの友人関係に限らず、他校の友だちや異年齢での関わりができる。
不登校のこともでも楽しめることが大事。

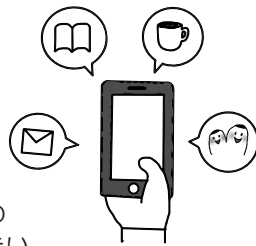
the community

「若者が町の様々な資源に繋がることができる」ということがコンセプト。



この3つのコンセプトを軸に、中高生と未来をつなげていくことを考えたいと思っています。

アプリケーションをつくって、町で行われているイベント情報を配信する。また「こんなことを学びましたよ」という履修履歴をつくる。
これは最終的には「学校の内申」の評価に加えていただけるようにしたい。



また江東区内のお店や企業にお願いして、いろいろな所に中高生のフリースペースを作ってもらおう。「勉強スペース」や「軽食」「おしゃべり」「ゲームや漫画」もOKというところでマップをつくる。

中高生たちから情報投稿してもらってマップを仕上げる。



町のお店が学食になる。

中高生が貧困対策のことも食堂に行くことは、自尊心が傷つく可能性があります。町の飲食店で「皿洗い」を1時間したらその定食はタダ！みたいな形だと「よっしゃ、ラッキー」みたいな感じになるわけです。

ちょっとお手伝いしながらお得に「食事や買い物」ができるみたいな形ができるといいな。



「学年・学校」関係なし。「学校」間をまたいだ部活動やサークルを作りたいと思っています。

そういう情報の中に公的な支援を入れていきたいと思いません。

「相談の情報」も載せながら楽しいものでありつつ、こういったものを加えながら中高生に利用してもらえると良いなと思っています。

「顔が見える町」「中高生を温かく受け入れてくれる町」を作っていきたいと思っています。

江東区内の小学生、中高生の学び・居場所事例

●青少年交流プラザは、ひとりでふらっと行っても、みんなで青少年団体として登録をしても無料で利用できる、青少年の居場所です。また、青少年相談事業の居場所事業を行い、人と関わることが苦手な青少年のソーシャルスキルトレーニングも行っています。

江東区 青少年相談事業「こうとうゆうすてっぷ」

居場所イベント情報

【2020年2月】

ほっと一息 つきませんか？

web 

- ◇2月4日(火) 音楽スタジオ
- ◇2月18日(火) バドミントン
- ◇2月25日(火) カフェのお仕事体験

音楽スタジオ

音楽スタジオを借りて、電子ピアノやドラム、ギター等の楽器に触れませんか？

ゆっくりとした時間を過ごしましょう！

【日時】2月4日(火曜日) 14:00-16:00
【場所】江東区青少年交流プラザ 3階 音楽スタジオ

バドミントン

体がなまっていませんか？
いい汗かきましょう。

◎持ち物：飲み物、汗拭きタオル
※急遽変更となる可能性があります。
【日時】2月18日(火曜日) 13:00-15:00
【場所】江東区青少年交流プラザ 1階 レクホール

カフェのお仕事体験

★オリジナルカップケーキを作ってみよう！

Cafeで淹れている美味しいコーヒーの淹れ方を伝授します。
みんなでコーヒーを飲みながら、ゆっくりとした時間を過ごしましょう！

【日時】2月25日(火曜日) 13:00-16:00
【場所】江東区青少年交流プラザ 3階 セミナールームB

予約は不要です。
いつでも気軽に見学、お試しの利用ができます。
※正式な利用には申請書への記入が必要になります。

【場所】江東区青少年交流プラザ(2階 居場所ルーム)
江東区亀戸7-41-16

【連絡先】080-9434-6949
(電話受付は平日の月～金、9:00～19:00)





江東区青少年交流プラザ

火曜相談窓口・居場所 (2階)

住所：江東区亀戸7-41-16

プラザって どんな ところなの？

僕たちが 紹介します！

多目的ルームA・B・Cは、壁面に鏡があり、ダンスや演劇、楽器練習等にピッタリです！

セミナールームA・Bは、各種ミーティング等に適した部屋です。

Check 様々な貸出施設があります！

音楽スタジオには、アンプやミキサー等の本格的な器材が揃っているので、バンド練習が活発に行われます！

260名収容のレクホールは、様々な活動ができます。ステージがあるので、発表会の会場にもなります！

Check 誰でも気軽に貸出できる！

ロビーは気軽に過ごせるスペースです！

どなたでも利用できる1階ロビーや、中・高校生、大学生を対象とした2階ロビーがあります。友達同士で楽しめる40種類以上の遊具の貸出や、ファッション雑誌・進学雑誌などもあります！友達と食事をしながら楽しくお話ししたり、学校の宿題をしたり...！あなたのライフスタイルに合わせて様々な使い方ができるよ！

Check 何回でも借りたい！読みたい！

貸出おもちゃを紹介します！

♡人気おもちゃ♡

- トランプ
- オセロ
- UNO
- 野球盤
- ナンジャモンジャ
- 人生ゲーム

Check みんなのイラストを大切にしています！

種類豊富な雑誌を用意！

Check 初めての行くんだけど どうしたらいいのかな？

1階・2階ロビーは自由に入出入りOK！空いているスペースに座って過ごしてみてもいい方に困ったらお気軽に近くの職員まで！

ニコラ・ポップティーン セブンティーン等 10代～20代向けのファッション雑誌が充実！今後はアイドル雑誌や...も増えていく予定です♡お楽しみに！

学習ルーム(自習室)の利用について

Check 最新の教材がご用意！

【対象】中学生～高校30代の方 ※学習目的以外での利用はできません

テスト勉強や資格勉強などの自主学習に取り組む青少年を対象に学習ルームを開放しています。お気軽にご利用ください！


※当日の団体利用状況によって開放できない場合があります。予めご了承ください。

☆利用される方は、1階事務室で受付をしてください

●「すなまちよっちゃん家」では NaNaの会主催、中高生が部活後、皆で食べてすごす里「中高生のしゃべり場」を2か月に一度火曜日17:00-20:00に実施しています。

住所：東砂7-9-13

連絡先 TEL:090-2755-0009 鈴木



●「江東中学生勉強会」は青少年交流プラザで 毎週水曜日 18:30-20:30 学習支援と食事の提供を行っています。

連絡先 TEL:090-2161-1963

令和2・3年度の青少年健全育成重点取組事項が決まりました

令和2年2月10日、平成31年度第2回青少年問題協議会（会長 江東区長山崎孝明）において、下記のとおり令和2・3年度青少年健全育成重点取組事項が策定されました。

1 区や青少年を取り巻く現状

江東区は、豊かな水辺と緑に囲まれた50万人都市であり、江戸の歴史や文化を残す下町情緒と臨海部を中心とした新たなまちづくりがまちを彩っている。

令和2年度には、基本構想に定める区の将来像「みんなでつくる伝統、未来、水彩都市・江東」の具現化のため、今後5か年を見据えた新長期計画を策定し、計画的かつ体系的に各施策を推進していく。

また、本年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、多くの競技場が整備されている江東区は、令和という新しい時代の幕開けとともに、世界から注目を浴びるまちとなる。

一方で、急速な都市化や少子化、インターネットなどの情報通信関連の技術革新によって人々の生活様式は急速に変化し、特に、昨今はインターネットを利用した違法薬物取引や詐欺事件、誘拐事件が相次いで発生するなど、インターネットの特徴である匿名性、密行性により、人々の暮らしのすぐ近くにも、犯罪が迫っているのが現状である。さらに、不登校やひきこもり、薬物乱用、児童虐待、ゲーム依存、インターネット依存など様々な問題が生じている。

こうしたなか、区や関係団体・機関は青少年健全育成のため、青少年を取り巻く現状や課題を的確に把握し、それぞれの組織が持つ強みをいかんなく発揮するとともに、より緊密な関係性を構築し、共通の課題解決に向けて重層的、かつ継続的に対応していくことが求められている。

また、令和4年には民法改正によって成年年齢が18歳となるため、青少年は2年早く成人として社会に迎えられることとなる。

これらの現状を踏まえ、重点取組事項を定める。

2 令和2・3年度の方角性

青少年健全育成基本方針の重点目標を踏まえた令和2・3年度の重点取組事項の方角性は、東京2020大会の機運を損なうことなく、大会終了後も子ども・若者がスポーツや地域活動に積極的に参加できる機会を拡充し、心身の健全育成を図るとともに、これらの取り組みを親子や地域ぐるみで行うことにより、家庭や地域との絆を深められるよう取り組んでいく。

また、ひきこもりの潜在化・長期化やいじめ、不登校などの増加については、本人のみならず家族等への支援を強化していくほか、今後青少年は18歳で成年として自己決定権を行使し得ることから、危機回避のための情報リテラシーおよび情報モラルを習得できるよう、さらなる取り組みを推進していく。

3 令和2・3年度 青少年健全育成重点取組事項

重点目標	行動目標	令和2・3年度 重点取組事項
1 健全で安全な社会環境づくりの推進	①子ども・若者を有害環境から守る取り組みの強化とメディア環境を有効に使う能力を養う	子ども自身がSNS等のコミュニティサイトをはじめ、携帯・スマホ等の安全・安心な使い方、ネット社会でのルールやマナーを習得するための取り組みを進める。
	③安全な社会環境づくりを推進する	地域パトロール等の実施をとおして関係機関・団体の連携を強化し、地域ぐるみで安全・安心な環境づくりを進める。
2 明るく温かい家庭づくりの推進	②家族が絆を深めるふれあいを「家庭の日」から始める	親子でスポーツを行ったり、地域活動に参加したりすることで、絆を深め家庭が子ども・若者にとって最も心地よい居場所となるよう支援していく。
	③家庭教育力の向上を図る	様々な家庭教育の学習機会を通じて、子育ての孤立を防ぎ、地域で子育てについて相談し、学び合う関係が構築できるよう支援していく。
3 非行防止と心豊かな社会づくりの推進	③子ども・若者の非行防止・薬物乱用防止に取り組む	子ども・若者自らが薬物に関する正しい知識を身につけるため、薬物乱用防止教室や街頭啓発活動を積極的に行い、薬物乱用の芽をなくす取り組みを進めていく。
	④困難を抱えた子ども・若者を支援する	困難を抱えた子ども・若者の社会的孤立を防ぐために、相談機能の充実や関係機関・団体の連携を図り、自立への支援を進めていく。
4 自主活動・社会参加活動の推進	②スポーツを通じて子ども・若者の体力の向上および心身の健全育成を図る	東京2020大会の開催に伴い、スポーツに親しめる環境整備を進め、子ども・若者にスポーツの魅力を伝えていく取り組みを進める。
	③子ども・若者に居場所の提供や活動場所の環境を整備する	子ども・若者が家庭、学校、職場以外で人との関わりを通じて、安らぎや学び、自己有用感などが得られる居場所づくりを進める。

※行動目標の番号は、江東区青少年健全育成基本方針に記載されている行動目標の番号による。

こども・こどもを育てる人の相談窓口

江東区 こうとう ゆうすてつぷ (青少年相談)	青少年期のひきこもり や将来への不安や悩み (対象:概ね15歳~ 40歳未満までの方及び その家族等)	こうとうゆうすてつぷ ※令和元年度 080-9434-6949(予約・相談) 予約:月~金曜日 9時~19時 来所相談:火~木曜日 13時~17時 (青少年課・区役所4階23番/青少年交流プラザ) 電話専用相談:火曜日 17時~19時	江東区 家庭相談	親子・兄弟姉妹・夫婦間 のこと	来所相談 保護第一課(区役所2階) 03-3645-3106 月・水・金曜日 13時~17時 保護第二課(総合区民センター1階) 03-3637-2707 月・水・金曜日 13時~17時
江東区 教育相談	不登校・いじめ・学習・ 進路・就学・こどもの教 育・行動などについての 相談【電話相談及び 面接相談(要予約)】	教育センター2階(東陽2-3-6) 03-3649-3834 月~金曜日 9時~16時30分	江東区 消費者相談	商品を購入したり、 サービスを利用した際 のトラブルに関する苦 情・相談	電話相談 03-3647-9110 来所相談 江東区消費者センター 扇橋3-22-2(パルシテイ江東2階) 03-3647-9110 月~金曜日 9時30分~16時 ※第2・4月曜日は休館日 土曜日は閉室
	ブリッジスクール (適応指導教室)	教育センター 03-3645-5277 月~金曜日 9時~16時30分	江東区 子育て相談	子育てについての不安 や悩み	深川七子子ども家庭支援センター 相談専用03-5600-8708 豊洲子ども家庭支援センター 相談専用03-3536-7682 東陽子ども家庭支援センター 相談専用03-5665-4017 大島子ども家庭支援センター 相談専用03-5836-1625 南砂子ども家庭支援センター 相談専用03-5617-7772 電話相談 月~土曜日 9時00分~18時00分 来所相談 月~土曜日 9時00分~18時00分
江東区 電話教育相談	こどもの教育なやみ 電話相談	スクーリング・サポート・センター (教育センター3階)03-3649-3834 月~土曜日 9時~17時 ※これ以降の時間および日曜、祝祭日は留守番電話にて受付	江東区 学校教育相談	区立幼稚園・小学校・中 学校・義務教育学校の教 育内容に関する相談	教育委員会指導室(区役所6階) 03-3647-9179 月~金曜日 9時~17時
江東区・東京都 虐待相談 児童相談など	虐待の通告 (児童に虐待のおそれ や疑いがあるとき)	こどもの虐待ホットライン (南砂子ども家庭支援センター) 03-3646-5481 月~土曜日 9時~18時 こども家庭支援課養育支援担当 03-3647-4408 月~金曜日 8時30分~17時	江東区 精神保健相談	思春期精神保健相談 お子さんのこころの問 題(不登校・ひきこもり・ 家庭内暴力等)で悩ん でいるご家族、または ご本人に対する相談	城東保健相談所 03-3637-6521 深川保健相談所 03-3641-1181 深川南部保健相談所 03-5632-2291 城東南部保健相談所 03-5606-5001 ※予約制 相談日時は毎月の江東区報 (毎月21日号)をご覧ください。
	虐待の通告 (緊急時、夜間や休日)	児童相談所全国共通ダイヤル 189番(いちばやく) 警察 110番	東京いのちの 電話	自殺などさまざまな精 神的危機に追い込まれ ている人たちのための 相談	電話相談 03-3264-4343 年中無休 24時間 インターネット相談 https://www.inochinodenwa-net.jp/ 電話医療相談 (心身の健康維持に関する相談に医師が対応) 03-3264-4343 土曜日 14時~17時(祝祭日を除く)
江東区 母子・父子相談	母子・父子相談一般及 び福祉資金の貸付、母 子生活支援施設の入 所など	来所相談 保護第一課(区役所2階) 03-3645-3106 月~金曜日 8時30分~17時 保護第二課(総合区民センター1階) 03-3637-2707 月~金曜日 8時30分~17時			

ジュニアリーダーになろう

キャンプや宿泊研修などをとおして友達と仲良くしたり、自分を表現するスキルを磨きませんか。令和2年度初級講習会(対象は小5から中1)は9月から開始し、宿泊研修を含む6回、毎回日曜日に地域の区民館などで実施します。中級講習会は初級認定者を対象に5月に始まります。詳細は区のHPをご覧ください。ジュニアリーダーが小学校を訪問し、PRすることもありますのでお楽しみに!募集用パンフレットは青少年課窓口の他、後日学校をとおして配付します。

※事情により講習会内容等を変更する場合があります。



編集 後記



青少年課(杉本)

臨海部のPTA、IT、広告、WEBデザイン、それぞれのプロの方々のボランティアに支えられて始まったきずな100号の編集作業でしたが、「セイショウネンってどうなんすか」とジャブの応酬。作業後半では「子ども会面白そうす」の声も。おせっかいな下町の大人たちが築いてきた「地域の子育て」にスマートなタワマンの保護者たちがどう学んでいくか、これからは楽しみです。

SPECIAL THANKS

【編集・企画】江東区中学校PTA 連合会長 関口朗太
江東区小学校PTA 連合会長 小林慶

【編集・企画・デザイン】酒瀬川恵

【企画ページ挿絵】西山綾子